（技術名）八重山海域における沿岸性魚介類の魚種別漁獲量							
（要約）八重山海域で平成 23～26 年に漁獲された沿岸性魚類の体長組成および種構成を調査し、セリ名称別漁獲量を種別の漁獲量に分離した。その結果、これまでよりも正確な種別漁獲量が把握でき、今後の資源解析に利用可能となった。また、セリ名称ブダイ類では、漁獲量上位 5 種が漁獲量の約 8 割を占めるなど、特定種の重要性が高いことが分かった。							
水産海洋技術センター石垣支所				連絡先	0980-88-2255		
部会名	水産業	専門	資源管理	対象	サンゴ礁性魚介類	分類	研究
普及対象地域							

［背景・ねらい］

八重山海域で漁獲された沿岸性魚類は、主に八重山漁協と泊魚市に出荷されており、両市場で漁獲量を集計することで、主要な魚種の年間漁獲量が把握可能となる。しかしながら、当該統計は方言名に基づいたセリ名称で集計されているため、セリ名称に複数の魚種が含まれるものについては、個別の漁獲量を把握することができない。そのため、平成 17 年から八重山漁協での魚種別体長組成データをもとに、セリ名称を種別に分離してきたが、八重山漁協と泊魚市に出荷される魚種に偏りがあり、種別漁獲量の推定値の問題が指摘されてきた。

そこで、八重山漁協と泊魚市で得られた種別の調査重量比を用いて、八重山海域における沿岸性魚類全体の魚種別漁獲量を把握した。

［成果の内容・特徴］

1. 泊魚市と八重山漁協セリ市場でブダイ類、ヒメジ類等セリ山ごとに種類と体長を記録した。
2. セリ名称「ブダイ」のうち、特に重要である魚種はキツネブダイ、イロブダイ、スジブダイ、ナガブダイ、イチモンジブダイで、記録された 27 種のうち上位 5 種で全体の 84%を占めており、特定の魚種の重要性が高いことが明らかになった。
3. セリ名称「ブダイ」のうち、調査した 4 年間で漁獲量に顕著な減少が認められたのは、イロブダイ、スジブダイで、増大が認められたのはナガブダイ、ニシキブダイで、同一セリ名称内でも種によって動向が異なっていた。
4. 八重山漁協での調査データのみを利用していた平成 22 年以前の推定結果と比較すると、泊魚市での扱い量が多い魚種では推定漁獲量が増加する傾向があったことから、過去の漁獲量は、推定結果の誤差が大きかったと考えられる（図 1）。
5. 各セリ名称の構成種比率を八重山漁協と泊魚市で比較したところ、漁獲物によって出荷される市場に偏りがあることが明らかになり（図 2）、八重山海域の魚種別漁獲量の把握には、八重山漁協だけでなく泊魚市での体長組成データの蓄積が重要であることが確認された。

［成果の活用面・留意点］

1. 種別の漁獲量が把握できたことで、生活史等を研究する上での優先順位をつけることができるようになった。ただしナンヨウブダイ、ヒブダイのようにセリ名称区分で 1 種が割り振られている種もあるため、その漁獲量も含めて順位を設定する必要がある。
2. VPA を用いた資源解析を行う上では、本調査を今後も継続していく必要がある。本統計は、両市場のセリを通った漁獲物についての統計であり、鮮魚店などに直接持ち込まれた分や浜売りした分については把握不能である。

［具体的データ］

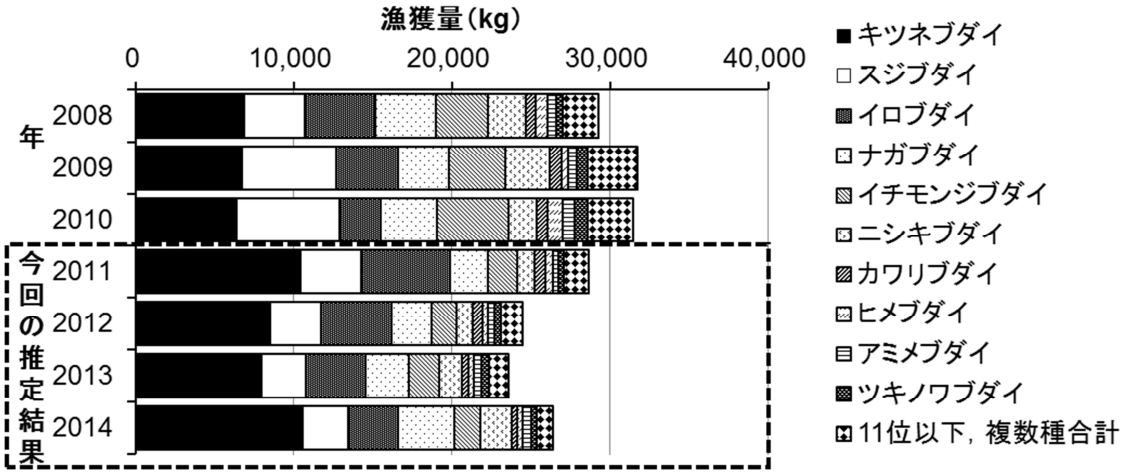

図 1.　セリ名称「ブダイ」を魚種別漁獲量に分離した結果。2008~2010 年は、過去の研究報告（秋田ほか、2011）より。

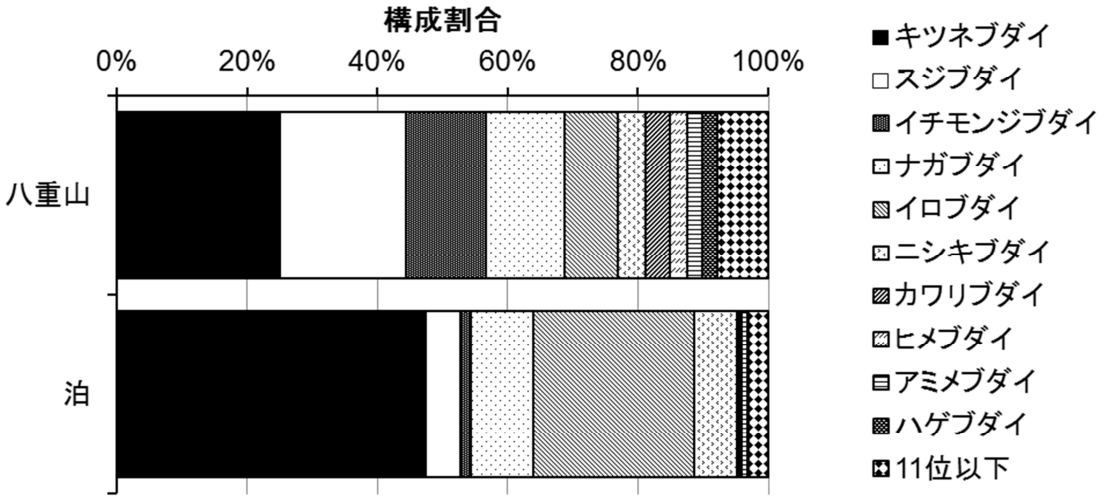

図 2. セリ名称「ブダイ」を構成する種の市場別構成割合。泊魚市では、キツネブダイやイロブダイなど比較的大型になる種の割合が大きい。

［その他］

課　題　ID：2011 水 002
研究課題名：八重山海域の魚類資源（イソフエフキ等）管理技術の確立
予 算 区 分 ：県単（水産海洋研究費）
研 究 期 間 ：平成 23 年度～平成 27 年度
研究担当者：秋田雄一・海老沢明彦・太田 格・上原匡人
発表論文等：邦文誌 Fauna Ryukyuana（投稿中）